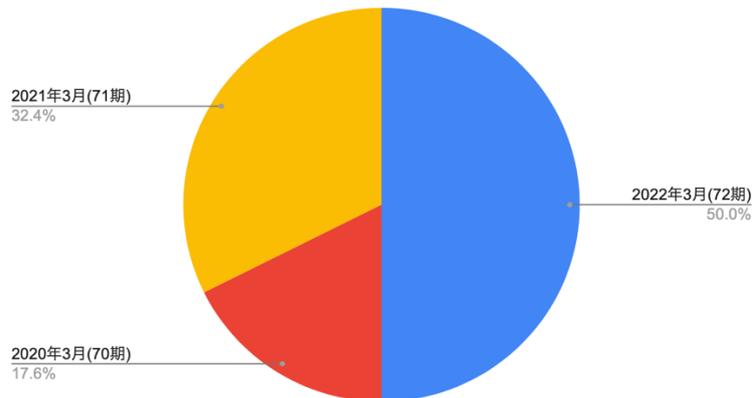


「お子様の卒業時期」



モチベーション・メンタル維持の方策について

プレッシャーをかけないこと。とにかく声かけ。ポジティブに！
いつも通りに過ごすことと自習する環境に協力する
プレッシャーをかけないように心がけました。勉強が好きではなく、志望校も下げようとしていましたが、浪人してもよいから後悔しないようにとだけ伝えました。
無関心ではなく、自分で考える力を身に付けて欲しいとの思いから、成績が悪くても勉強しなさいなどの言葉は言わないようにしていました。
3食なるべく規則正しく出しました。親としては健康管理のみ。美味しいご飯を作る
本人の心の中の問題なので。親は時々話を聞くくらい。
運動部所属と外部レッスンで身体を動かす時間もあり、勉強時間とのバランスはとれていたと思います。また、スマホ等の自由時間については制約せず、勉強時間をきちんと確保しているようであれば本人に任せていました。タイムマネジメントは自分で。勉強時間が確保できないときは自由時間を削るなど、考えながらやっていたように思います。
つらそうな時は話を聞いたり美味しいものを食べたり、気分転換に出かけたりした。
あくまで親の意見ですが、模試を沢山受けること、塾で勉強することで周囲の頑張りが見えること、が勉強をするモチベーションにつながっていたと思います。家では食事や休憩時に、一緒にYouTubeで受験や大学を楽しく紹介しているものを見て、明るい雰囲気になっていたと思います。
生活リズムの整えと思考過程の支持。親としては子供の意思を尊重させました
塾に通っていなかった為、放課後はギリギリまで学校で勉強し子どもなりに環境を整えていた。あとは、子も親も1日3食の食事を大事にしていた。
本人は、朝勉強(学校が開く時間に行き学校で勉強)のために早起きをし、学校や塾で閉まる時間まで勉強していた。3食の食事を大事にしていた。塾でやってくる時は夕食の弁当も持って行きたいと

<p>言ったので、親も早く起きて間に合うように昼用と夜用のお弁当、プラス補食(おやつ的なもの)を作った。食べることが大好きな子だったので、食事は頑張った。</p>
<p>勉強のペースを、出来るだけ本人に任せることを心がけていました。</p>
<p>平日、休日ともに遅くまで塾の自習室で勉強をしていた。親は勉強法や成績には一切干渉せず、相談された時にのみアドバイスする方針を徹底した。</p>
<p>行きたい大学のシラバスや教授の研究テーマを調べたり、生活圏の情報を集めて進学後の生活のイメージを話題にするように心掛けました。</p>
<p>特別なことはしていませんでした。唯一、受験本番に備えて規則正しい生活をするように指導はしていました。同じような進学を目指す部活動の友人の存在が非常に大きかったようです。</p>
<p>浪人するよりは安いと声を掛け、参考書や通信教育など好きなだけ買ってあげた。塾に行かないのに月1万円位かかった。</p>
<p>塾に通っていなかった為、放課後はギリギリまで学校で勉強し子どもなりに環境を整えていた。あとは、子ども親も1日3食の食事を大事にしていた。</p>
<p>本人は、朝勉強(学校が開く時間に行き学校で勉強)のために早起きをし、学校や塾で閉まる時間まで勉強していた。3食の食事を大事にしていた。塾でやって来る時は夕食の弁当も持って行きたいと言ったので、親も早く起きて間に合うように昼用と夜用のお弁当、プラス補食(おやつ的なもの)を作った。食べることが大好きな子だったので、食事は頑張った。</p>
<p>子ども一勉強する時間としない時間との過ごし方にメリハリをつけていた。好きなバンドの曲を聴いていた。朝、勉強をするため、朝型の生活に変えていた。」親一美味しいご飯を毎日食べられるよう、工夫をしていた</p>
<p>余計な口出しをしないようにしていました。</p>
<p>大学入学後にしたい事をイメージさせる</p>
<p>本人は学校へ行き友人と会うことが楽しいことで息抜きになるようでした。</p>
<p>受験勉強を頑張るのは本人なので、親は基本的には見守るしかないと思っていました。特別なことはしていませんが、本人がいろいろ話したい気分ของときは聞き役になったり、集中したいときにはそっとしておいたり、あまり余計なプレッシャーやストレスをかけないように心がけてはいました。</p>
<p>本人を信じつつ、模試、テスト結果を共有し、前向きに頑張れるよう、明るく声かけていたつもりです。本人の言うことには、耳を傾けるようにしました。</p>
<p>規則正しい生活を心がけていたようです</p>
<p>子供が書道の時間に書いた「最後に自分を支えるのは、これまでしてきた努力だけ」をポスターフレームに入れていました。親は余計なことを言わず、見守るだけでした。親の不安を本人にぶつけないように気をつけました。模試の結果に一喜一憂しないように気をつけました。平均値の法則で、良かった次は悪くなるし、悪くても次は良くなるはず。悪くて落ち込んでいるときには、「次は大丈夫。それに模試でよかった。これで分からない問題、1つ消えたね」と言うようにしていました。</p>

進路決定の経緯について

親の意見を話した上で最終的には子供の意見を尊重しました。
北海道で暮らしたいという本人の希望と、その中で一番行きたい学校をという点で決めました。
北海道に残って趣味の仲間と活動したい、国家試験のある資格をとって働きたい、という希望がありました。希望する職業の知り合いに話を聞き、志望校を決定しました。
やりたいことを細かく考えて、大学を選びました。
興味のある分野を学べる大学が少なかったため、最初は選択肢が狭く切磋琢磨できるクラスメイトもいない状況だったけど、成績が上がってきたタイミングでより広い分野に志望を切り替える提案をしてから選択肢が広がり、本人の頑張りにつながったと思う。実際問題、手の届く範囲で一番難関校に入れたので、視野が狭くなってしまったところで、上手くアドバイス出来てよかったと思う。
三年春の段階で模試の判定が悪く、そこから文系に変更、先生と何度も進路相談して、決めました。
夢希望とは違って単純に偏差値に沿った進学をしました。
高3秋に医学部から別の学部へ進路変更。正直親は驚きましたが、そこからのラストスパートの頑張りはずさまじく、誰かの意見ではなく自身が決めた目標だったからこそ、最後まで頑張り抜けたのかなと思います。
情報系の理系学部を希望していたので、その分野で的を絞りました
3年生の11月まで一貫した目標がなく最後に進路が決まってから寝る暇も惜しんで勉強
表面的ではなく、本音としてどうしたいかを聞き、それに対する選択肢やアドバイスを提示
これと言って将来の夢やなりたい職業があったわけではなかったため、悩んでいましたが、学部を調べていくうちに興味のあるものがわかってきたようです。こんな学部があるよー、といういろいろ勧めて、それは全く興味が無いと言われてたり、それも志望学部を決める上で役にたったかなと思っています。
道外の大学を希望したので、文句のつけどころのない説得をするように言った。それができないようなら道外は無理だと。その結果、進路・夢について改めてしっかり考え決意を固めていたようだ。
子どもにとって、敬愛する作家の軌跡を辿ることが進学で目標、この目標は、家族で共有できていたので、前期日程の決定はスムーズでした。しかし後期日程の選択は、父親と意見が割れて、結果として前期が不合格になってしまったため、次の進学先を決定するまで家庭内がゴタゴタしてしまいました。現在は、後期日程で進学できた大学に家族も納得し感謝していますが、たとえ意見が割れたとしても、実際に通うのは子ども自身。親は、ひとりの独立した人間である子どもの選択を尊重する心構えが必要でしょうし、子どもも親を説得できる言葉を準備しなくてはなりません。それだけでなくも神経がすり減る受験。学習に集中できるよう、家族は味方と感じさせることが理想です。
第一志望は2学年時くらいから本人で決定していたようです。滑り止めの私立受験については相談がありましたが、基本は本人で決定しました。
模試で志望学科の他の受験者の併願校も見られるらしく、自分の希望と似た組み合わせの中から面白い学科を選んだ様子です。
本人が話してきた時には応じたが、基本自分で調べ、考え、選択し、決定していた。

道外の大学を希望したので、文句のつけどころのない説得をするように言った。それができないようなら道外は無理だと。その結果、進路・夢について改めてしっかり考え決意を固めていたようだ。

1年生で九州大学、2年生で京都大学のオープンキャンパスに一人で行かせた。面白かったと話していたが、その後、志望大学にはしていなかった。進学を決めた大学は、国語の先生(卒業と同時に退職された?)から、「面白い大学がある」と紹介されて、興味を持ったようだ。合格できるとは思っていなかったらしく、第一志望にしていた大学の2次試験を受けずに、今の大学に入学を決めた。特に、どんな職を目指すという話は聞いていないが、勉強しなければいけない環境に身を置き、友人にも恵まれて、楽しく過ごしている。

得意教科と旧帝大であることから判断しました。

将来の仕事に関係する学部を選択した

早くから医学部志望でしたのでぶれずにそこにむけて頑張っていました。

進路選択にあまりこだわりがなく、高2まではなんとなく北大行こうかなーくらいの感じだったので、一応道外の大学も視野に入れて広く検討してみるように助言しました。結果、オープンキャンパスや直接大学を見に行きキャンパスライフをイメージした上で志望大学を決めたようです。大学で学びたいことははっきりと決まっていなかったため、研究対象が幅広く、入学後興味をもった分野について自由に学べる学部を選択しました。

女子です。自立でき、子育て、家庭生活と両立できるような仕事ができることを意識しました。現役時は間に合いませんでしたが、一浪中に、本当に勉強だけに集中することで、成績を伸ばすことができました。

子供の希望通り

女の子なので小さいときから、医療系の資格をとるように勧めていました。中学生のときに医学部を目指して、高校もそれに合わせて、医学部進学が多い南高を目指して学区外受験しました。

出願書類等の準備について

<p>自分が自分の意志で受けるのだという自覚を持ってもらいたかったのと、自立していくために親があまり手を出さないほうが良いと思ったので、なるべく本人に準備をさせました。</p>
<p>すべて本人にまかせました。わからないことだけを一緒にチェックし、親は受験料の振込のみ。</p>
<p>出願は、インターネット申込&カード決済なので、本人と親で画面を確認しながらの共同作業でした。郵送用の印刷などがあり、プリンター必須です。</p>
<p>夫の担当でした。一校のみでしたのでしっかりと準備できました。</p>
<p>ネット出願だったので、ミスがないように家族全員で入力確認した。直前で余裕もないので、本人任せにしなくてよかったと思う。</p>
<p>書類はファイルして一冊にまとめ、親もコピーしてチェック。振込は親がしました。</p>
<p>事前に親が調べていても、知らないフリで本人に全部させました。間違っても、指摘は我慢。</p>
<p>出願書類の準備については母親が主となり、取り寄せをしました。センター試験の結果によっては出願する大学が変わる可能性もあることを視野に入れ、出願の可能性のある大学の書類を、書き損じを考慮し2部ずつ手配。前期出願大学の書類に麦茶をこぼすという惨事があり、2部準備していたことで安堵した思い出があります。</p>
<p>センター試験は学校の指導のもと行っていました。志望校の願書取り寄せなどは余裕がなかったようなので親が取り寄せました。その他試験日時なども親がスケジュールリングしました。</p>
<p>最初に共通テストの出願を本人が行っていましたので、私立や2次試験の出願も親は取り寄せなど手伝いましたが、本人が行いました。学校の共通テストの出願に対する取り組みが良かった。</p>
<p>現金準備、自宅PC、写真画像処理等のお手伝い</p>
<p>出願時期はいつ？クレジットカード必要だから手続きする時は言ってね、と数回言ったのみで、本人任せ。(インターネット出願のため受験料はクレジットカード払)</p>
<p>願書写真の準備や、ネット出願の手順確認など、本人と一緒に進めました。</p>
<p>子どもが自分で対処できるならいいのですが、大人だからこそ気づく処世術もあります。特に金銭が絡む手続きは、放任するのではなく、一緒に確認して、この機会に一般常識を教えたり読んでわからない情報は実際に問い合わせてみると、想像以上の情報を得られることがあることを体験させました。子ども世代は、わからないことはネットを調べて済ませてしまい、人に尋ねることは、迷惑かけることでいけないことだと、勝手に思っているようです。電話や会話において、どういう言い回しをすれば良いか、一筆添えなければいけない書類があることなども教える機会になりました。しかし気をつけていたつもりでも、複数の似たような願書を同時に作成した際に、投函した中身が分からなくなりました。幸い、書留郵便を差し止める手続きがあることを郵便局で教えてもらい、手続きをやり直しました。以後は、送付物は封をする前に写真に撮っておくようにしました。</p>
<p>全て、母が手配しました。担任の先生との面談では、具体的なことを伺い、家庭でやらなければならないことをノートしました。</p>

道外受験の準備について

宿・航空券の手配も子供が全てやって、現地も子供だけで行かせました
9月ごろ大学の横のビジネスホテルを2日前から2泊予約しましたが、すでにツインルームはなく、ダブルベッドしかなく、割高でしたが2部屋とりました。予想外に千歳空港の天候が悪く1日遅れの前日チェックイン。事情が事情なのでホテルの方でも一泊分だけ請求で助かりました。空港で長時間キャンセル待ちしたり、千歳のホテルを取ったりと精神的にも疲労困憊でしたので、下見も近く楽でよかったです。
宿と航空券については首都圏だったので、二次試験受験が確定してから本人と一緒に手続きをした。大雪で飛行機が飛ばず不安ではあったけど、こういうこともあるので、陸路での交通手段も考えておくといい。当日は一人で受験に行かせて現地で兄に空港まで迎えに行ってもらおうよう対応した。
半年前に、ホテルと航空券の予約をしましたが、大学の最寄りのホテルはすべて満室でした。進路が早めにわかっている方は、試験日程が解り次第、予約したほうが良いです。雪のため、飛行機飛ばないことも考え、2日前から、現地入りしました。ホテルで勉強が出来るよう広めの机が、ある所を探しました。照明が暗かったので、ライトを現地で、購入しました。滞在期間が長いので、飲食店が、近くにある所を探しました。また、本人が、受験中に母が、下宿先を探し、試験後本人も内覧し、予約して、帰りました。試験期間中に大学生協等で、下宿先の斡旋をしてくれますが、相談予約が必要ですので予約開始がいつからかアンテナを張っておくことが、必要です。
旅程は本人が決めて親が予約と振込。当日は受験会場につければよしということにして他のことは考えない。宿泊中にみたい参考書は最低限に絞って手持ちで行きました。
6月くらいには当初受験予定であった大学の徒歩圏内ホテルを手配。秋に急ぎよ受験大学を変更したのでホテルは取り直し、予定していたグレードのホテルは満室だったため、徒歩圏内の別のホテルを確保しました。冬の空の状況を鑑みて2日前に現地入り。ほぼホテルで勉強していたので、机があることはもちろん、机上ライトと加湿器の準備が可能かどうかを事前にホテルに確認しておくと思います。また、試験当日の昼食ですが、うちの子は緊張しているからか、あまり食べられない様子だったので小さなあんぱん5個入と麦茶をホテル近くのコンビニで購入。小さな炊飯器とお米を持ち込み、おにぎりを握って持たせたというお母様もいらしたと聞きますので、お子さまの好みに合わせて準備してあげるといいかもしれません。チョコやラムネ、キャンディも持たせましたが、うちの子は全く食べてなかったことを記憶しています。
全て親が行いました。試験は母親が同行。本人が受験中はアパートの事前予約をしていました。
東京に家族が住んでいましたので、宿の心配はありませんでした。飛行機も東京便は数も多く、コロナ禍で変更が自由にできましたので、助かりました。ただ大雪での交通障害のことは一生忘れないと思います！お友達の保護者と情報を共有する事が大事だと思いました。
上の娘は友達と航空券も宿も決めて自分たちで手配していたが、下の子(72期)は条件・希望(日にち、時間帯など)を親に伝えるのみで、親が全て手配。(宿に関しては2件提示し本人に選ばせた)

当日は、前日からの大雪で交通・航路が乱れていた為、どうい手段がベストか上の娘にも相談し対応した。最終的には旭川空港まで早朝車で連れて行き、旭川→東京－(新幹線)→京都に行った。たまたま仲の良い子が同じ大学を目指していたので、2人で大体のところは決めて、相手の親が旅行会社に申し込みに行ってくれた。住居は予約ができるので、早めにその地域の不動産屋のパンフレットを集め、検討し、申込日に予約すると楽。必ず受験することを条件に予約でき、不合格の時はキャンセル料は取られないので、3月に都合つけるのが難しそうな場合は特に便利。我が家の場合は、全て娘本人が資料を集め、検討してくれたので、親は申込日に電話したのみ。(申込初日はなかなか電話が繋がらず、希望したところも残り数部屋、という状況だった)しかし、合格してからでもネットで部屋の中等確認し契約もすぐできるので、それぞれにあうやり方でやれば良いと思う。色々なやり方があるよ、ということをお早めに把握して家族会議すれば良いかと思う。

国立私立の受験料、親子2人分2往復分の旅費に50万円弱かかりました。私立の入学金も20万支払いました。高くつきましたが、コロナでオープンキャンパスにも行けなかったので、子どもも親の同伴を望みました。また、大雪で空港が閉鎖されたあの日が、まさに移動日だったため、変更可能なチケットを持っていたことで気持ちに余裕を持ってました。どんな状況になっても、いざとなったらクレジットカードを切れる大人がいるという安心感は大きかったと思います。そのくらい不安を抱えた移動でした。後期日程も、不合格のショックに呆然とするのを奮い立たせて飛行機に乗り、試験に臨むというミッションをこなしたため、2人で行ってよかったと思いました。

2日前移動の予定でしたが、天候が悪化していたため急遽3日前に移動させました。本人からは気持ちに余裕をもって受験ができたこと感謝されました。ホテルは受験会場に徒歩で行ける範囲に取りました。偏食気味だったため、母親が受験日前日入りし、家で食べているものと同じものを食べさせました。受験に掛かったトータル費用は約25万円くらいだったと思います。

上の娘は友達と航空券も宿も決めて自分たちで手配していたが、下の子(72期)は条件・希望(日にち、時間帯など)を親に伝えるのみで、親が全て手配した。(宿に関しては2件提示し本人に選ばせた)当日は、前日からの大雪で交通・航路が乱れていた為、どうい手段がベストか上の娘にも相談し対応した。最終的には旭川空港まで早朝車で連れて行き、旭川→東京－(新幹線)→京都に行った。友達と一緒に行ったのでお互い安心できたようで、新幹線も乗れてラッキーぐらいに捉えることができたようだ。もちろん疲れたが、千歳に到着するまでのことや空港で何時に出発するかわからず待機しているよりも良かったのではないかと、と言っていた。北海道の子は出てしまえば何とかなる。逆に北海道に受験しにきた子たちは空港で足止めされ、更に辛かったのではないだろうか。

国公立大前期試験の時に泊まるホテルは8月頃に予約しました。東京の中でも大学が多い地域は、アクセスの良いホテルから早めに埋まってしまうようです。(共通テスト後にキャンセルが結構出るようですが)航空券は秋頃に手配したような気がします。受験時は親も同行し、子どもが試験を受けている間に大学生協主催の保護者説明会に参加したり、学生寮の見学をしたりしました。

9月にホテル、航空券予約しました。名古屋を受けましたが、1週間前に欠航が決まり慌てました。雪が心配でしたので、1日早い便に変更してもらい、ホテルも追加しました。

受験にかかる費用について

道外の学校を、私立2校、国立前期後期エントリーしました。私立合格すると、国立合格発表前に入学金の支払いが必要で、返金はありません。受ける数にもよりますが、旅費合わせ 100 万近いお金がかかりました。

一校のみ受験でした。飛行機は結局朝の便の JAL を前日正規料金で買い、前から早割りで取っていた ANA は変更が夜の便しか取れず捨てることに。予想外の出費でしたが空港から 1 時間以上かかるので、受験前日朝の便に変更して明るいうちに到着して正解でした。

私立と国立、受験料は数万円。滑り止めに入学金これが10万以上した記憶があり、安心感を得るためとはいえ出費がかさむと感じました。旅費は変更可能な航空券を手配したのほぼ正規料金。宿泊費は受験で混み合うので安く取ることはできませんでした。

受験は国立1校、私立2校で受験料は普通だと思います。旅費はマイルや早割りで安く取りました。宿泊は東京の家族の家を使いましたが、受験の直前は大学の近くのホテルに泊まりました。1 番近いホテルは半年前頃から満室でした。キャンセルできるのでホテルは早く予約するといいです。

志望校がはっきり決まっていなくても、例えば京大 or 阪大、もしくは東北？と悩んでいたとしても、思っているよりも早めに部屋を押さえておくことをお勧めする。道外受験は受験日前々泊入り、大学によって1日で終わるところや 2 日あるところもあり、試験の終わる時間も遅いので、+1 泊を考えておく方が良い。食事代も宿泊数が増えれば多くなるので覚悟すべし。

道外受験の場合は費用が馬鹿にならない。しかも前泊ではなく 2 日前、3 日前現地入りになるので宿泊料の他、食事代も余計にかかることを頭の片隅に入れておいた方がよいかと。志望校がはっきり決まっていなくても、例えば京大 or 阪大、もしくは東北？と悩んでいたとしても、思っているよりも早めに部屋を押さえておくことをお勧めする。

道外受験は受験日前々泊入り、大学によって1日で終わるところや 2 日あるところもあり、試験の終わる時間も遅いので、+1 泊を考えておく方が良い。食事代も宿泊数が増えれば多くなるので覚悟すべし。私大は2つ受ける予定だったが、不安だからもう一つとか何とか言って、気がつけば色々出願していた。インターネット出願は便利だが恐ろしい。

受験にかかる費用は予定していた金額の範囲内でしたが、合格後、入学準備にかかった費用が予想より大きかったです。(パソコン、プリンター、入学式用スーツ、一人暮らしのための生活用品など)に出願。公立大と私立大を受験。公立大に合格し、進学。公立大、国立大の受験料は 18000 円前後だった。札幌会場があったので旅費、宿泊費はかかっていない。私立大の受験料は 35000 円。

悪天候などの可能性も考え、入試 2 日前には現地入りし、試験会場に徒歩で行けるホテルに宿泊しました。親子で旅費は 15 万×2 回、受験料は 1 校 3 万円程度でした。

私立は、薬学部の共通テスト利用が 1 万円、学校独自の筆記 3 万 5000 円くらい、合計 10 万円くらい。旅費は千歳一中部で早割 1 人往復 2 万円くらい。ホテルは親とツインで 2 万円。

失敗したこと・良かったことについて

本人の意思にまかせてよかったなとおもいます。
受かってからの宿探しはバタバタしたので、やはり受験日に一緒に行ってある程度下見しておけば良かったと後悔しました。
受験の練習ということで私立も受験しました。私立は合格しても行かない、合格手続きもしないと決めていました。受験しなくてもよかったかなとも思いましたが、特待生で合格できたことでとても自信がついたようです。国立に不合格なら浪人と決めていても、受験してよかったと思います。
関東の私立は、英検などで試験免除などの学校もあり、早くに調べて準備しておいたら楽だったなあと反省点です。
なるべく模試のいいところをほめるようにしたこと。
コロナもありオープンキャンパスも何もなく大学生活への期待や夢が持ちにくかった中で放置気味だったけど、最後には自分で方向性を決めていたので、構いすぎなくてもちゃんと考えていると思った。
本人が、のんびりしていて、進路を考えておらず、三年で文転し大変でした。1年の時から、進路をしっかり考えなければいけなかったと、親子共々反省する次第です。
家にこもりがちになり、気分転換をしにくい。かといってラインなどしていると長時間を無駄にした。
本人のやる気とモチベーションを保ってあげるのは、容易では無いと痛感。家族がヤキモキしても、辛いのは本人だと家族皆で陰ながら支えました。ただ、それが本人には全く伝わって無かったのは失敗だった様な。受かったから良かったですが
高3秋の出願変更宣言には驚きましたが、なんとなく夏位から、別のところを見ている気がしていたので、驚きましたしショックではありましたが、大学3年生となった今の息子を見ると、何が正解かはわかりませんが、本人の選択であったのできっとこれで良かったんだよな~と思っています。受験期は家族一丸となって合格というゴールに向かっていたので、こうしておけばよかったということは本当はたくさんあるかもしれませんが、いまとなっては無駄なことなどなかったのではと思っています。先のことを考え出すときりがないので、まずは目の前のことをひとつひとつクリアしていくに限るのかな、と思います。受験間際の時期には、不安そうな顔をするときもあったので、ひとりじゃないよ、お友達もいるし、先生もいるし、お父さんお母さんもいる。だから安心して当日を迎えようね、と、そんな感じの言葉がけをしていた記憶があります。また、受験までより、受験を終えて合格発表までの時間の方が、本人は不安マックス状態のようでしたので(情緒不安定だーと、本人が言っていたくらいなので)、なるべく時間を共に過ごすように意識して過ごしました。
全面的に子の意見を尊重し、応援する姿勢を伝えた。
3年生夏頃から真剣に取り組み成績も伸びました。1.2年でもう少しやっていたらという思いもあり。
共通テスト2日目に段違いをし、想定の数点が取れずにかなり落ち込んでいたが、担任や塾の先生達の助言で、結果的に学部変更で出願したことが、本人にとっては学部決定し大学後の学習負荷が少なく済み良かったと感じています。(北大総合理系希望から学部指定入試になった)

下の子(72期)は塾に通っていなかったのですが、受験テクニックが身につけていたかどうかはわかりません。しかし、学校の授業と先生の指導を受け自分で勉強すれば、塾に行かなくても受かるという意気込みで励んでいたようなので、それはそれで良かった。

高校受験のときから塾というスタイルは自分に合わないと言う、家計に優しい子であった。実際幼少時の頃から公文は性に合わない、自分で勉強する、と言ってすぐ辞めていた。しかし、口には出さないが彼なりに家計について考えてくれていたのだと思う。そう考えると申し訳なく思う。あとは、冬休みは家での勉強となり人と会話をする機会がない！と言っていたので、食事の時は色々会話を楽しめるよう、食事の時間を末っ子とも合わせ出来るだけ複数で過ごせるようにした。学校行事・部活動に最後の最後まで燃え尽きるまで取り組めたことで、切り替えがうまくできたようです。心配でも、引退の時期まで見て見ぬふりをして言葉を呑み込み、我慢して良かったと思う。下の子はコロナの関係で自分では納得しようとしてはいたが不完全燃焼だったようで、意識的に切り替えをしていた。2人を比べるとそこが違い、下の子は切り替えがあまりスムーズではなかった(気持ち的に)ように思う。文武両道、二兎ではなく三兎(以前の校長がよく仰っていたが)、思うようにやるのが本人にとっていちばんと2人目の受験が終わってつくづく感じた。

家族が仲良く過ごすことが、受験生にとって大きな支えになると思います。

とにかく普段から子供と話をすること。あくまでも本人の人生なので後悔させたり人のせいにするようなことがないよう主導権は子供に任せることが大切かと思います

受験生に余計なストレスを与えず、勉強に集中できるような環境を提供することが親の務め。

失敗例から参考にしてもらえば、親は「自分の時はこうだった」と過去の栄光を持ち出し無駄に子どもを追い詰めることをおススメします。当然ながら倍率3倍なら、3分の2は落ちてしまいます。受験だけが生きる目的ではないことを伝える心の準備が、十分ではありませんでした。受験が終わったら、学校や塾との付き合いは遠ざかりますが、親子にはその後の人生が続きます。心無い言葉がポロッと出てしまい、二度と一緒に暮らさないと決意させるような道外進学とならないよう、大人の器を大きくしておきたいものです。

今年のように道外への移動日に天候悪化が想定される場合は移動日をずらすなど臨機応変に対応した方が本人の動揺を防ぐ意味でもいいと思います。国公立は合格発表後から入学準備までの期間が大変短く、発表後にすぐに上京して本人の希望条件の部屋を探して契約、そしてライフラインの開通までは工程的に厳しいと判断し、合格できなかった際にすぐに解約できる物件を探し、発表前に契約しました。(そのせいで親もドキドキでしたが)もちろん本人には言いませんでした。

模試の情報量が親世代と違うので子供に教えてもらう方がよいと思います。校内で勉強について行ければ受験はなんとかなるかと思いました。

あまり受験だけに捉われないう、普段通り過ごせる雰囲気にしていました。

もう少し早い学年のうちから目標を決め達成するイメージを持たせることが出来れば良かった。それができなかったことが失敗。

第一志望校に入れる見込みがあったのに、入れなかったことは、ずっと引きずっていくのだと思います。そうならないためにも、ネットとの距離を取れる学習環境を作ること。女子は体調不良が周期的

に訪れ、後半の伸びは見込めなかったの、それを見越して早目に受験勉強に取りかかればよかったのにと悔やみます。ただし、がんばっても伸びない時には、逃げ道を準備しておくことは有効でした。ちなみに子どもとは、プランDまで計画しておきました。結果的に、我が子は現在、自分で選択した第二志望の大学で自分に合った学問を学び、大学から充実した寮生活や奨学金を補償してもらうべく自身で行動し、その恩恵を受けて生活しています。

下の子(72期)は塾に通っていませんでしたので、受験テクニックが身につけていたかどうかはわかりません。しかし、学校の授業と先生の指導を受け自分で勉強すれば、塾に行かなくても受かるんだという意気込みで励んでいたようなので、それはそれで良かったかと。高校受験のときから塾というスタイルは自分に合わないと言う、家計に優しい子であった。実際幼少時の頃から公文は性に合わない、自分で勉強する、と言ってすぐ辞めていた。しかし、口には出さないが彼なりに家計について考えてくれていたのだと思う。そう考えると申し訳なく思う。あとは、冬休みは家での勉強となり人と会話をする機会がない！と言っていたので、食事の時は色々会話を楽しめるよう、食事の時間を末っ子とも合わせ出来るだけ複数で過ごせるようにした。

学校行事・部活動に最後の最後まで燃え尽きるまで取り組めたことで、切り替えがうまくできたようです。心配でも、引退の時期まで見て見ぬふりをして言葉を呑み込み、我慢して良かったと思う。下の子はコロナの関係で自分では納得しようとしてはいたが不完全燃焼だったようで、意識的に切り替えをしていた。2人を比べるとそこが違い、下の子は切り替えがあまりスムーズではなかった(気持ち的に)ように思う。文武両道、二兎ではなく三兎(以前の校長がよく仰っていたが)、思うようにやるのが本人にとっていちばんなんだと2人目の受験が終わってつくづく感じた。

1年の実力テストでかなり落ちてしまいそこから奮起したように思います。部活も引退までしっかりやり切ったことは良いことだったと思います。切り替えて受験勉強へ！

大学受験に向けて親が出来ることは健康管理とお金の準備だけと割り切って、勉強のことにはほとんど口を出さなかったのが結果的に良かったかなと思っています。

現役時は、夏休みまで部活もあり、とにかく時間が足りなかったそうです。うちは、浪人もありと思っていましたが、最初からそう言うのだらけてしまうと思いましたので、センター試験が終わってから、浪人も仕方ないねと話したように思います。浪人が決まると、3日ほどゆっくりしていましたが、その後はひたすら勉強、自分のペースでしっかりやり直したことで、一気に伸びました。このまま大学生になれなかったらどうしようと、自分を追い込んでたようでしたが、現役時は何もわかってなかったと気づいて、嬉しかったようです。浪人中は、本当に頑張っていたのがわかりましたので、とにかく静かに見守りました。1日の勉強時間を決めて、無理をせず勉強を続けていたのは良かったと思います。

受験を控えたご家族へのアドバイス

<p>心配が、増えるとおもいますが、子供を信じること。受かる受からないでなく、頑張っている姿を信じられないかと。体調には、気をつけました。</p>
<p>様々な事情によって制約は出てきますが、どこを受けるにしても受けないにしても、本人が最終的に納得しなければモチベーションも上がらず、入学しても気持ちが前向きにならないと思います。大変ですが、とことん話し合ったり説明したりして早めに心を決めて受験に臨めると良いですね。</p>
<p>子供を信じて任せるも、色々な状況を想定してすぐ動ける準備をしておくことも大事と思いました。</p>
<p>高3の秋になってようやく勉強を始めました。模試の結果をみると浪人かなと思っていましたが、1月以降に驚くほど伸びました。最後までお子さんを信じて、あきらめずに見守ってあげてください。</p>
<p>どんな結果も人生の糧になるとあって、子どもを信じて応援してあげてくださいね！</p>
<p>親は黙ってその漢字のように木の上に立って見守るだけでいいと思います。</p>
<p>お子さんそれぞれ。お子さんの様子をよく見ていてフォローしてあげるのが良いと思います。</p>
<p>先生は正直言って、他人事で居ることの方が多い。親同士の情報は何よりも助かりました。</p>
<p>ついこの前、産声をあげたはずなのに、あっという間に大学受験期を迎えてしまった！と感じられているご家族も多いかとお察しします。我が家もそうでした。まして、大学で実家を離れて暮らすことになると、そこには子育て卒業が待っています。手がかかって大変だった時には、お願いだから早く大きくなって～と思っていたはずなのに。18年って案外あっという間と過ぎてからわかったことです。受験期は本人だけでなく家族も共に経験するビッグイベントだったと思っています。ぜひ、ご家族一丸となって、嬉しいことも悲しいことも一緒に体感して、濃い時間を共に過ごして欲しいなあ、とそんな風感じます。春にたくさん桜があちらこちらに咲くことを心からお祈りしています。</p>
<p>大学生活にかかる費用などについて、受験本番を迎える前に余裕を持って子供と話しておく方がよいと思います。</p>
<p>志望校に関しては全て子供のやりたいようにやらせました。親としては北大に行きたく欲しかったのですが、自分のやりたいことが見つかったようなので道外に行かせました。</p>
<p>子どもは自分で答えを持ってるので、信頼して待つ姿勢が大事なかなと思います。</p>
<p>感染症等想定できないリスク管理が必要な時世。健康管理が最も大切になると思われますので、ご家族皆様のご健勝をお祈りいたします。</p>
<p>もちろん全て彼らひとりで考えていたのではなく、話をしてきた時には真剣に話しをし、友達や先生にも意見を聞くよう伝えていたので、それらを参考にし自己決定をしていたように思います。それがお互いにとって良かったと思っています。受験をするのはもちろん子ども自身なので、親は見守ることしかないと思っておいた方が良くないかと思えます。話をしたくなる雰囲気作り、そして、話をしてきた時にはどんなに忙しくても手をとめて話す、それがいちばん有難い、と終わってから娘に言われました。はいはい、また後でね、と言った時もあるような…。あとは食いしん坊な娘なので、食事が有難かったと。ですので、その家庭、子どもによって力になれることは違うかもしれません。</p>

<p>今回で2人目の受験生でしたが、2人に対し共通していることは、自分で考え決めさせ、自己責任でやってもらったことです。もちろん全て彼らひとりで考えていたのではなく、話をしてきた時には真剣に話しをし、友達や先生にも意見を聞くよう伝えていたので、それらを参考にし自己決定をしていたように思います。それがお互いにとって良かったと思っています。無関心ではなく見守るていでしたが、苛々はもちろんしてました。でも、本人はもっと苛々してるんだらうなあ、と言い聞かせ親は気楽に構える、構えているふりをしているのが良いかと思えます。</p>
<p>受験をするのはもちろん子ども自身なので、親は見守ることしかない、ぐらいいに思っておいた方が良くかと思えます。話をしたくなる雰囲気作り、そして、話をしてきた時にはどんなに忙しくても手をとめて話す、それがいちばん有難い、と終わってから娘に言われました。はいはい、また後でね、と言った時もあるような…。あとは食いしん坊な娘なので、食事が有難かったと。ですので、その家庭、子どもによって力になれることは違うかもしれません。</p>
<p>口を出さず、子どもを信じて、見守ることが大切だと思いました。成績が上がらないといって、子ども自身がストレスや緊張を和らげるもの、ことを取り上げないのも大事です。</p>
<p>一番真剣に考えているのは本人ですので、相談された時以外は口を出しませんでした。</p>
<p>全ては本人のやる気次第だと思います</p>
<p>南高に入って、素晴らしい仲間に出会えて刺激され勉強したり充実した時間を過ごせたことは本人が受験に臨むにあたり大きな力になったと思います。コロナ禍で親が参加できないことがほとんどで私達の代は残念でしたが、今後再開されたら是非参加して一緒に南高生活楽しんで下さい。</p>
<p>控えめに、でも人生の先輩として、親の希望も伝えつつ、応援してください。資料は早めに集めた方が良くかと思えます。学校の講習は、友達にも会えて気分転換にもなるようなので、たくさん受けるのも良くかと思えます。</p>
<p>うちの子の場合は部活も行事も全力で取り組んだことがその後受験勉強のエネルギーになったようです。親から見ると部活ばかりで勉強大丈夫？って心配になることもあると思いますが、最後まで信じて応援してあげてほしいです！</p>
<p>運動が苦手なので試合には縁がありませんでしたが、「大学受験というのは勉強の全国大会みたいだね。」と話しました。緊張しているときに「代わってやりたいけど、代わったら絶対落ちるからねー。自分で受けた方がいいよね？」と言ったら「もちろんだわ」と笑っていました。入試直前の緊張をほぐすために、色々話したことが良い思い出になっています。「子供は親が思う通りには育たないけど、育てたように育つ」そうです。大切に育てたお子さんは、ちゃんと応えてくれるって思います。南高に合格する力がある我が子を信じましょう</p>